

埼玉県肝がんセミナー

保護観察所の業務と C型肝炎治療への働きかけ

さいたま保護観察所
統括保護観察官

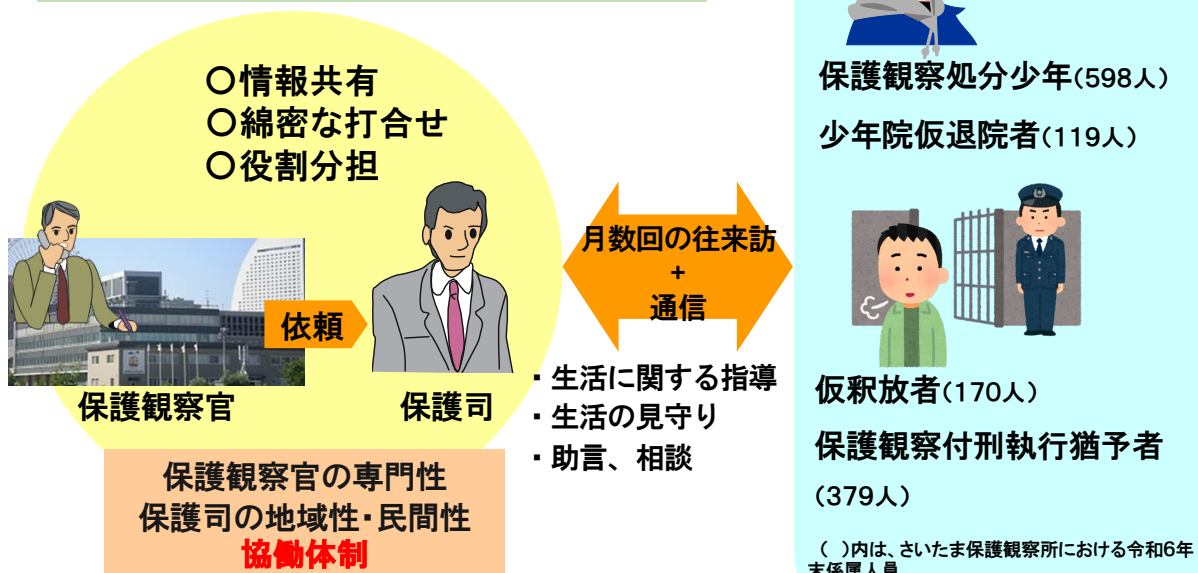
斉 藤 昭 人

1

1

保護観察とは 社会内での再犯防止と立ち直り支援

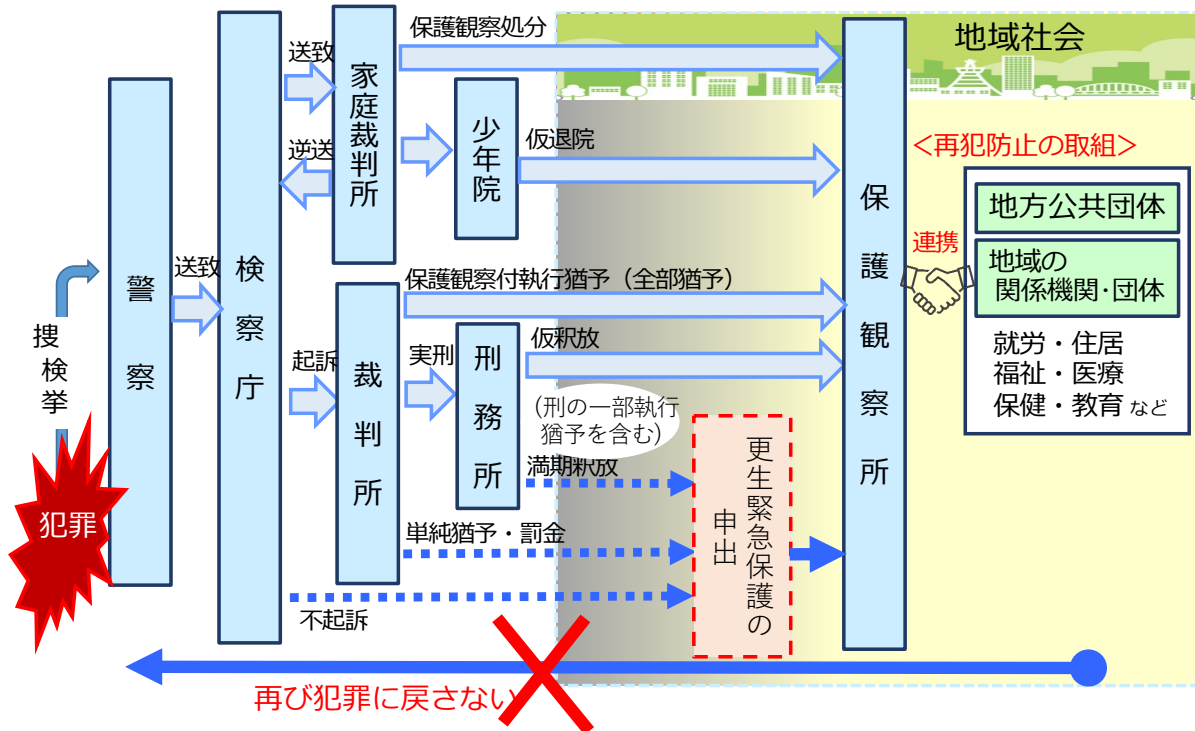
遵守事項を守るよう**指導監督**し、
自立した生活を営めるよう**補導援護**することで、
再犯・再非行を防止し、立ち直りを図る。



2

2

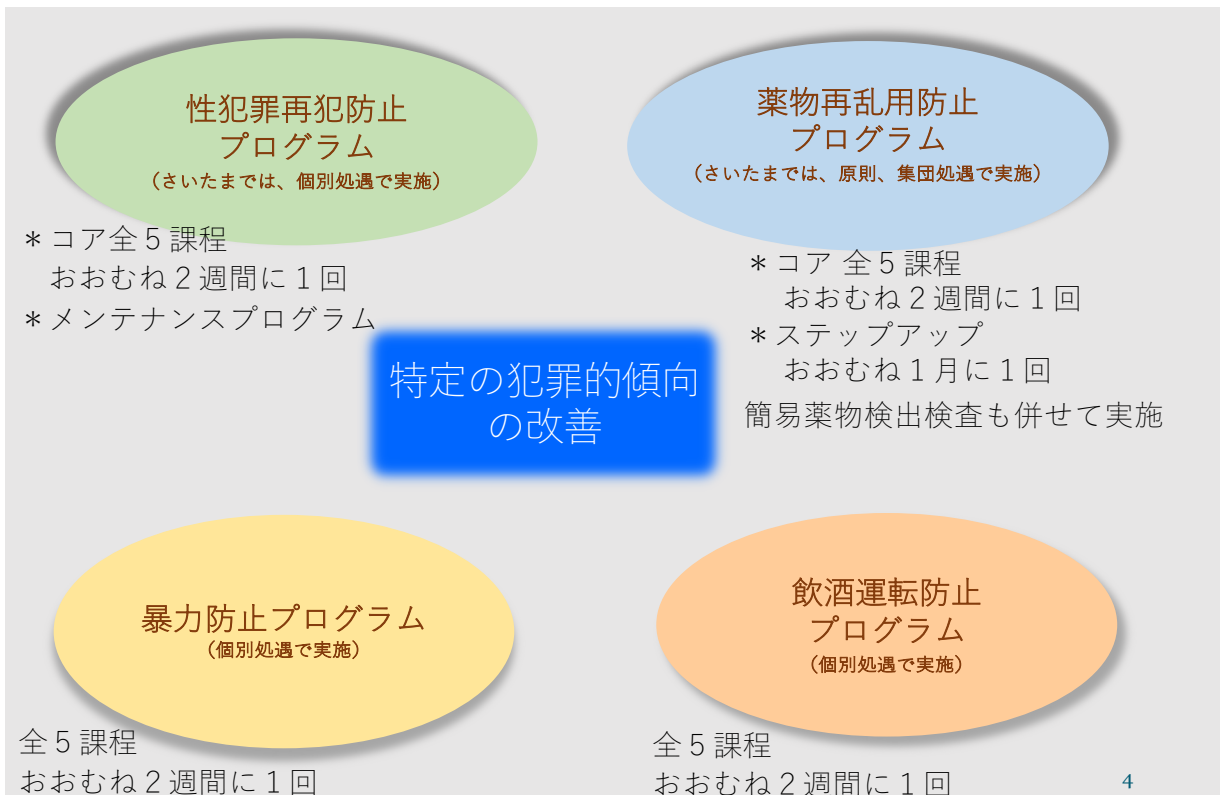
刑事司法手続の流れ



3

3

2 専門的処遇プログラムの種類と内容



4

4

薬物再乱用防止プログラム

対象

- 保護観察に付されることとなった犯罪事実に、**指定薬物又は規制薬物等の所持・使用等に当たる事実が含まれる**仮釈放者、保護観察付執行猶予者、保護観察処分少年又は少年院仮退院者（**特別遵守事項で受講を義務付けて実施**）
- ※ 保護観察付全部猶予者及び保護観察処分少年については、プログラム受講を特別遵守事項に定めることが相当である旨の裁判所の意見が示された者
- ※ 保護観察処分少年及び少年院仮退院者については、18歳以上の者のうち、必要性が認められる者

教育課程：ワークブック等に基づき、保護観察所において、個別又は集団処遇により学習（保護観察官が実施）

コアプログラム（全5回）

：おおむね2週間に1回の頻度で原則として3月程度で全5回を修了

- 依存性薬物の悪影響と依存性を認識させ、自己の問題性について理解させるとともに、再び乱用しないようにするための具体的な方法を習得させる。

- 第1回 薬物依存について知ろう
- 第2回 引き金と欲求
- 第3回 引き金と锚
- 第4回 再使用を防ぐには
- 第5回 強くなるより賢くなるよう

大麻事犯の保護観察対象者については、その特性等を踏まえた以下の5課程を実施可

- 第1回 大麻ってどんなもの？
- 第2回 何のために大麻を使ったの？
- 第3回 自分の本当の気持ちを考えてみよう
- 第4回 本当にほしいもの・なりたいたい自分を考えよう
- 第5回 再使用防止計画を立ててみよう

ステップアッププログラム

：おおむね1月に1回とし、発展課程を基本としつつ、必要に応じて他の課程を、原則として保護観察終了まで実施

- コアプログラムで履修した内容の定着を図りつつ、薬物依存からの回復に資する発展的な知識及びスキルを習得させることを主な目的とする以下の3つの課程

【発展課程】

コアプログラムで履修した内容を定着、応用、実践させる（全12回）。

【特修課程】

依存回復に資する発展的な知識及びスキルを習得させる。

- A アルコールの問題
- B 自助グループを知る
- C 女性の薬物乱用者

【特別課程】

①外部の専門機関・民間支援団体の見学や、②家族を含めた合同面接をさせる。

簡易薬物検出検査

- 教育課程と併せて、尿検査、唾液検査又は外部の検査機関を活用した検査により実施。
- 陰性の検査結果を検出することを目標に断薬意志の強化を図る。

保護観察終了・地域移行による終了

5

5

薬物再乱用防止プログラム

簡易薬物検出検査

再使用の「摘発」が目的ではない！
あくまで「断薬意志の強化」が目的

H16.2 ビスアライン、トライエージ導入 ...尿

H16.7 アキサイン導入 ...尿

H20.3 アイスクリン導入 ...唾液

H23.3 ユトラップMET導入 ...尿

H27.12 ステータス導入 ...尿

R6.11 トクスワイプオーラル導入 ...唾液

ビスアライン



アイスクリン（唾液検査薬）



ユトラップMET



6

専門的処遇プログラム(個別・集団処遇)

教育課程(ワークブック)

引き金→考え→欲求→使用

もしもあなたが周りの引き金に刺さると、自分でも自覚しないままに薬物やアルコールのことを考え始め、自動的に欲求が生じ始めてしまいます。下のイラストを見てください。置けば、どんどん悪い気持ちになっていくのです。

薬物やアルコールのことを考え続け、欲求が膨らんでいくのにストップをかけるには、どうしたらいいでしょうか。実は、これには少しの努力が必要です。『**寝ようかどうしようか**』などと迷っている時間はありません。『**ヤバイ!**』と思った瞬間に、できるだけ早く考えを打てる消さないで、再使用につなげてしまいます。

思考ストップ法

一番大切なのは、使いたい気持ちになるべく遠くならないように、できるだけ**食事を減らす**ことです。しかし、自分にとっての引き金が何かをきちんと意識するまでには少しの時間がかかります。いつも引き金を避けることができるようになります。

第5回 強くなるより弱くなる

「薬物やアルコールが弱くなくても大丈夫。もう使いたいとは思わない」 / 「やめてしばらくだった。そろそろ使っている友人と会っても平気なはず」 / 「クラブに遊びに行っても、異性は使わない自信がある」

薬物やアルコールから離れていることに成功した人は、強いから成功したわけではなく、弱いから成功したのです。弱くは、薬物やアルコールを再び使わないためには、再び使ってしまうやすい状況から遠く離れておくことが重要であることを知っているのです。逆に薬物やアルコールを使いやすい状況に近づけば近づくほど、実際に使ってしまう危険は高まります。強い人は、引き金からできるだけ離れていることによって、薬物やアルコールをやめ続けることができるのです。下のリストは、薬物やアルコールの再使用に陥りやすい危険な状態を示したものです。

- 引き金となる「場所」「人」「物」「状況」などを避けないまま
- 「汚染」のサインに気付かずに、放置すること
- 再使用を正当化するような考え方をしてしまうこと
- 危険な状況において、適切な対処法(その場を離れる、誰かに連絡する、思考ストップ法を行うなど)を憶らないこと

【わたしの再発のサインと対処法】

わたしの引き金(誘惑)と危険な状態

避けるために迷ったときの対処法

「汚染」のサイン(薬物の使用による身体の変化、精神的な変化など)を察知する

使ってしまったときの対処法

手に負えない強い欲求が生じる瞬間・状況

対処方法

さいたま保護観察所における C型肝炎治療の働きかけ

- 1 薬物再乱用防止プログラムのワークブックに治療法、費用及び埼玉県肝臓病相談センターの連絡先等が記載されているチラシを編綴。C型肝炎であることを確認している者については、簡易薬物検出検査の際に保護観察官が働きかける。
→薬物再乱用防止プログラムの成人の新規受理件数(令和5年実績)は150名(仮釈放者79名、保護観察付執行猶予者71名)
- 2 薬物再乱用防止プログラム対象外の保護観察対象者に対しては、必要に応じて担当保護観察官が個別に情報提供を行っている。

※課題

- ・ C型肝炎治療の必要性を認識している者は進んで治療に向けて行動していく一方で、認識できていない者の反応は鈍い。
- ・ 就労等、他の社会復帰に必要な事項の対応を優先。